12 きのこ原木の枝から幹の放射性セシウム濃度を予測する手法が前進

Webﾍﾟｰｼﾞ

技術のポイント

放射能汚染地域の原木林利用再開に向けて、伐倒することなく、コナラ当年枝から幹の放射性セシウム濃度を推定する手法開発が進められています。これまでは当年枝の放射性セシウム濃度が安定していると言われていた11月から翌年3月までが限られた調査可能期間でしたが、私たちの研究により、8月から10月と4月でも安定していることが明らかになったことで、利用可能な原木林判定の調査期間が従来の約2倍に拡大しました。

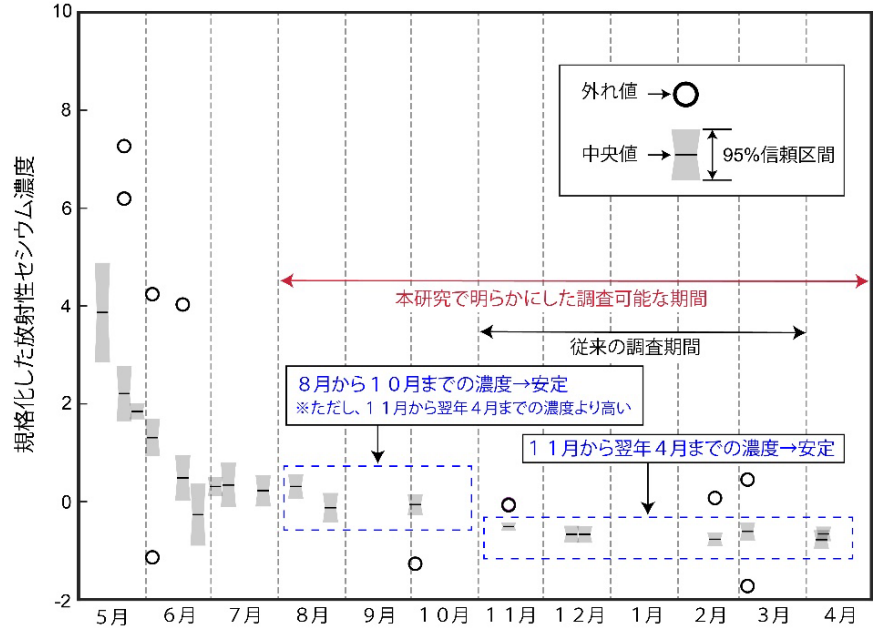

図1　コナラ当年枝の放射性セシウム濃度の季節変動
横軸は、福島県田村市都路町でコナラが展葉を始める5月初旬を起点に設定。縦軸の「規格化した放射性セシウム濃度」は、観測期間の放射性セシウム濃度の平均値をゼロとし、その変動幅を標準偏差で割ったものです。

連携・橋渡しの方向

原木林の放射性セシウム濃度調査を必要とする関連事業の推進に活用することができます。このような事業に携わっている方との連携を希望します。

詳細情報

・プレスリリース：https://www.ffpri.affrc.go.jp/press/2022/20220113/
・論文等：Ecological Indicators 133, 108361 (2021)

担当者

震災復興・放射性物質研究拠点 ・ 坂下　渉

森林産業実用化カタログ2025

お問合せ先
国立研究開発法人森林研究・整備機構　森林総合研究所
社会実装推進・知財戦略室
E-mail: sangaku@ffpri.affrc.go.jp
URL: https://www.ffpri.affrc.go.jp/sangakukan/index.html